

安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画  
策定・評価委員会 会議概要

- |   |           |   |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名       | 令和5年度 第4回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会     |
| 2 | 日時        | 令和6年3月22日(金) 午前9時30分から午前10時45分                          |
| 3 | 会場        | 安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 306                                  |
| 4 | 出席者       | 磯野会長、細川副会長、土肥委員、百瀬委員、水原委員、宇都委員、大澤委員、夏目委員、小澤委員、川崎委員 計10名 |
| 5 | 市側出席者     | 沖市民生活部長、地域づくり課 保科課長、金子係長、平林主任、土橋主任                      |
| 6 | 公開・非公開の別  | 公開  |
| 7 | 傍聴人       | 1人 記者 0人  |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和6年3月27日   |

協 議 事 項 等

1 概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 報告事項

①市民活動サポートセンター事業実施状況について

・意見なし

②令和5年度協働事業事例集について

(委員)

・全61事業は総数か、又は担当課から報告があった事業のみか。

(事務局)

・担当課から報告のあった事業のみである。

(委員)

・全事業の述べ参加人数は把握しているか。

(事務局)

・把握していない。

③安曇野市つながりひろがる協働推進計画【概要版】について

・意見なし

④つながりひろがる地域づくり事業補助金の見直しについて

(委員)

・対象団体の見分け方が難しい。以前は区及び区の内部団体も対象だったが対象外になった。

(事務局)

・要綱に基づいた運用となる。以前は地縁団体も対象としていたが、平成27年度頃、区に3年を限度とする地域力向上事業補助金を実施した際、補助金の整理でつながりひろがるからは地縁団体を除くようになった。ただし、事業の対象者や成果が区域内に留まらず、全市を対象とした場合は補助の対象としている。

⑤つながりひろがる地域づくり事業成果発表会及び協働のまちづくり交流会について

(会長)

- ・講演形式のフォーラムより、交流会の方が全員同じ方向を向いていて良いように感じる。

(委員)

- ・交流会は学生も求めているので、これからも開催してほしい。

(4) 協議事項

①令和6年度市民活動サポートセンター事業計画について

(会長)

- ・セミナーは全4回で団体のスキルアップにつながるように計画されているが、単発参加でも意味のある内容にしてほしい。

(副会長)

- ・ゆるつな茶話会の参加者はどれくらいで、どんな参加者がいて、どんな効果があったか。

(事務局)

- ・平均して12,3名、毎回新しい方が参加してくれている。また、参加した人が別の人に声かけして次の会に参加してくれることもあった。

(副会長)

- ・参加者が固定化せず、新しい参加者が来るよう工夫してほしい。

(会長)

- ・ゆるつな運営チームとして参加している立場から言うと、SNSを見て参加してくれている人もいる。幅広い年代に広がっていると感じる。

(委員)

- ・高校生の参加者はいたか。大学入学前の高校生に気軽に地域に関わる機会・居場所があればと思っている。

(事務局)

- ・過去に高校生及び専門学生の参加者がいた。

(副会長)

- ・ゆるつなの参加者は、比較的移住されてきた方が多い印象である。それぞれ夢をもってつながりを求めにきている。委員の皆さんも参加していただければ。

(委員)

- ・センターの活動を発信することだけではなく、登録団体の活動も発信すると良い。
- ・大学生がインターン的な形で各事業に参加することができれば良い。

(委員)

- ・センター整備の状況はいかがか。

(事務局)

- ・現在、場所を探している。

(委員)

- ・社協ボランティアセンター「にじ」もサポートセンターとの一体化を検討している。来年度はボランティアセンターが本所付けになり、機能面の強化を図っていくので連携をしていきたい。

(委員)

- ・市の施設にこだわらず、県や民間の施設も検討してほしい。

(事務局)

- ・団体からイベント情報を提出いただき、センターで発信しているが、団体から情報を提出してもらいやすくなる手法についてアドバイスをいただきたい。
- ・フェスタやゆるつなの運営チームに学生も関わってもらえることは可能か。

(委員)

- ・運営チームに学生が参加することは可能である。

(事務局)

- ・大学側で学生が地域活動に関わる場合、単位として反映されるには、市として大学側にどのような案内をすればいいか。単に周知で良いか、正規のルートがあるのか。

(委員)

- ・確認して連絡する。

(委員)

- ・登録団体は SNS 等を活用しているか。

(事務局)

- ・団体によっては SNS を活用している。センターとしても各団体の SNS を見たりしながら情報発信している。

(5) その他

①委員会名称の変更について

(事務局)

- ・「安曇野市つながりひろがる協働推進委員会」に名称が変わる。委員は継続して務められるように規定を設けるよう検討している。

②その他

(事務局)

- ・計画の冊子について、若い方にも手に取ってもらえるよう、デザイン等を工夫した。

(委員)

- ・温かみがあり、手に取ってもらえそうな冊子になっている。

(委員)

- ・非常に勉強になった。区と市民活動を結びつけることは難しいが、区の中の任意団体と結びつくことは可能だと思う。

(6) 閉会